

小杉駅北側の活性化&学生が集えるまちづくり

指導教員：教授 竹ノ山 圭一郎

担当学生：示野 亜有子、中島 愛菜、寺崎 恒太、南林 麟太郎、四辻 結乃、松下 紗弓

問題と目的

【射水市の現状】

- ①小杉駅（あいの風とやま鉄道）の利用状況：1日当たり利用者数（乗車人員）= 3,188人（2017）。年々増加傾向。
- ②コミュニティバス（小杉駅経由）の利用状況：12路線で1日に最大時で往路88本・復路96本が運行している。利用者数は年々増加。
- ③小杉駅北側の課題（1）「歴史と文化が薫るまちづくり事業計画」より：気軽に立ち寄れる飲食店や休憩場所が少なく、平時における観光客等の受け入れ態勢が整っていない。
- ④小杉駅北側の課題（2）「住民意見交換会における意見のまとめ」より：平日、駅前通りに人通りがない。学生が多くいるはずなのに学生の姿がみえない。学生の遊ぶ所、食べる所が少ない。→駅の近くに、若い人が集まり交流できる場を確保。文教ゾーンとしての更なる充実(魅力を高める)。
- ⑤「射水市都市計画マスタープラン（計画期間：令和2年度～令和21年度）」より：歩いて快適なまちづくりを推進する。高等教育機関や研究機関等との連携を通じ、新たな活力を育むまちづくりを推進する。人々の多様な交流を促し、まちににぎわいがあふれるまちづくりを推進する。
- ⑥「第2次射水市総合計画」より：市民の郷土への愛着と誇りを育む環境づくり。市民と観光客との交流の場の創出。学生の交流拠点の整備。

以上のことから、小杉駅の利用客は増加傾向にあるのに、特に北側地区に休憩したり滞在したりできる場所がないことが課題である。そこで、小杉駅北口付近に、学生と住民とが交流できる拠点を整備し、誰もが気軽に立ち寄り、食事をしたりおしゃべりしたり休憩したりできる場所をつくりだし、にぎわいを創出する提案を行う。

方法

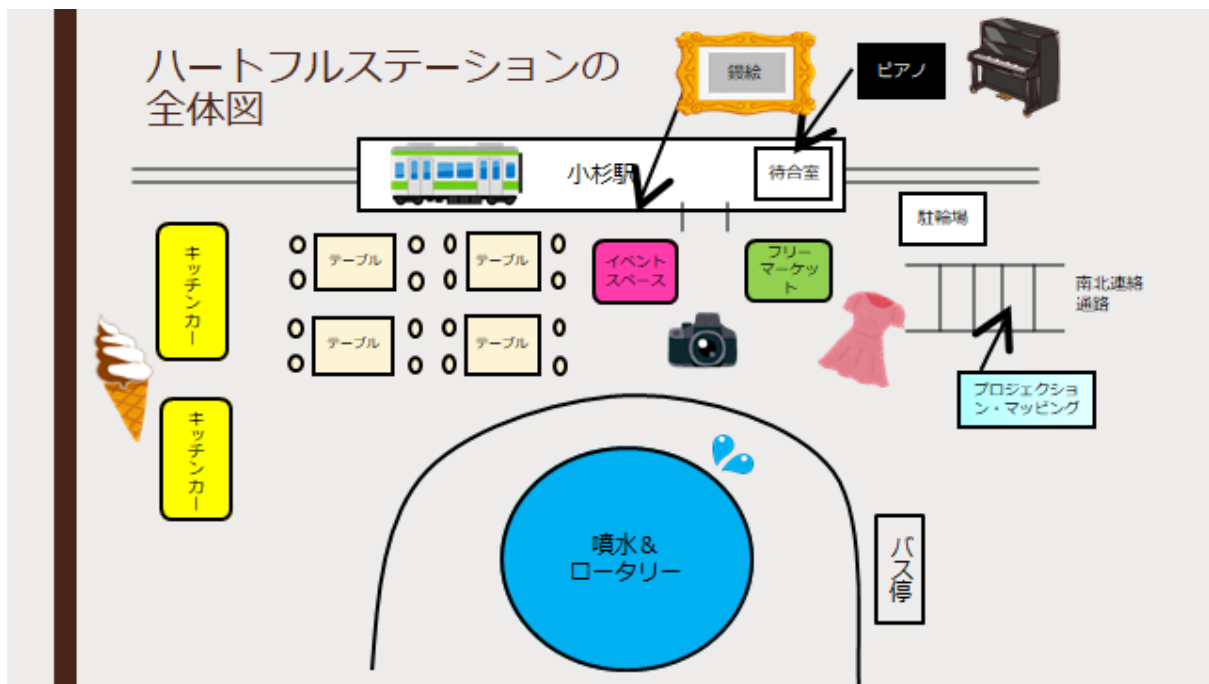
【活動の流れ】

取り組むテーマについて検討（10月）→いみず学生アイデアコンテスト参加を決定・テーマ選定（10月～11月）→小杉駅周辺のフィールド調査&資料収集（11月）→企画案の作成&秋水市役所への申請書提出（12月～1月）→富山コミュニティー論報告会&コンテスト・プレゼン審査（2021年1月29日）

【企画テーマ】小杉駅北側の活性化&学生が集えるまちづくり

「みんなで作るハートフルステーション(☒>◡<☒)。♡♡ チーム・こてえちゃん」

結果



・キッチンカー&テーブル席

小杉駅周辺のロータリーや空いている駐車スペースにキッチンカーなどの移動販売車を設置。駅前のスペースにテーブルと椅子を設置し、休憩できるスペースをつくる



・ イベントスペース

ステージを置き、誰でも自由にイベントを行えるようにする。また、インスタ映えな写真を撮るスペースを作り、集客を狙う。

自由にイベントを行えるようにすることで、集客、街をにぎやかにする、地域とのつながり作り、電車の待ち時間を楽しく過ごすことができることを狙う。



・ フリーマーケット

空いているスペースを活用してフリーマーケットスペースを作り、地域住民の方や学生が出店できる。学生サークルと錦絵職人のコラボによる錦絵アクセサリーの開発&販売をする。



・ ストリートピアノ at 待合室

富山福祉短期大学の幼児教育科にはピアノを演奏出来る人が多い為、ストリートピアノとして弾いてもらう事で学生も参画できる。電車待ちの利用者など、誰でも気軽に弾いて楽しめる空間になる。また、待合室にテレビ以外の娯楽も生まれる。

・ プロジェクション・ マッピング at 南北連絡通路

今まで暗くて不気味な雰囲気だった連絡通路に彩りが出て、利用者も増える。富山にちなんだものや季節にあった映像を投影することで、子どもも大人も楽しめる通路になる。また、富山の良いところを知ってもらう機会になる。



・ 費用の概算

No	品目	個数	単価	金額
1	テーブル	4	10000	40,000
2	椅子	16	3000	48,000
3	ポータブルステージ	1	200000	200,000
4	スタンドピアノ	1	300000	300,000
5	プロジェクター	1	600000	600,000
	合計			1,188,000

必要となる費用については、①CAMPFIREなどのクラウドファンディングのサイトを活用して、市民に支援を呼びかけることで費用を集める。また、②地元企業などに呼びかけて協賛金を募る。

考察

【期待される効果】 「みんなが集うハートフルステーション」

(1) にぎわいの創出

フリーマーケットやイベントスペースを設けることで子供から高齢者まで様々な人が小杉駅に集まる

(2) 学生のいる街 (文教地区)

駅前に学生が滞在できるスペースを作り出すことで、学生の姿が日常的に見えるようになり、文教地区としてのイメージアップにつながる

(3) 滞在型ステーション

学生が参加できるイベント、軽食を食べたり楽しくおしゃべりしたり時間を過ごせる休憩場所、サークル活動や発表の場、地域の方と学生の交流の場を小杉駅に設けることで地域住民からだけでなく小杉駅を利用する人や学生からも愛される駅になることが期待できる

引用文献：「小杉駅周辺地区まちづくり基本構想 検討業務委託報告書（令和2年3月）」